

# 實驗上の育兒

醫學博士 瀨川昌著

▲薄め方の心得 牛乳の薄め方に就ては是迄澤山御質問が有りますから、詳しく茲に説明致します。うが、先づ次々の表に依つて御覽下されば、牛乳の薄め方から、薄めた牛乳一日の分量から、其薄めた牛乳中に要する純牛乳一日の分量から、一日授乳の回数から、一回の飲用分量迄、生兒成長の月日に従ひ、夫々薄め方や飲ませる分量が一目してお解りになること、信じます。

生後一週	牛乳薄め方	薄めたる牛	純牛乳	一日一回の授乳
二週	牛乳水	乳一日用量	日の量	乳回数飲用量
三週	一合 三合	四合	一合	八回 五勺
四週	一合 二合	六合	二合	八回 七勺餘
五週	一合 一合五	七合五勺	三合	七回 一合
六週	一合 一合	八合	四合	六回 一合三勺
七週	一合 五勺	七合五勺	五合	六回 一合二勺
八週	一合 五勺	七合五勺	五合	六回 一合二勺

うに願ひたいのです、先づ初生兒が生れて一週間から三週間頃迄牛乳で養育するには、牛乳を何の位の割合に薄めて與へたら可からうかと云ふに、牛乳一合へ水三合の割合にして薄めれば丁度可い加減で御座います、ソコで晝夜一日分の用量は今か話した割合で薄めた牛乳四合あれば凡を差し支へないのです、其の四合の薄めた牛乳の中には純牛乳一合を要するので、表にも純牛乳一日の量一合と記してあるを見ても良くお解りになりましたらう、薄めた四合の牛乳は一日何回に分つて飲ませるか云へば夫れを晝夜八回に授乳するので一回の飲用分量は即ち五勺に當ります、其の次は四週より二ヶ月迄、三ヶ月より四ヶ月迄、五ヶ月より六ヶ月迄、七ヶ月より八ヶ月迄、今説明した通りに表へ照して見たら生後の月日によつて、薄め方も、薄めた牛乳一日の用量も、純牛乳一日の分量も一日授乳の回数も、一回の飲用分量も、皆夫々に違ひのある事を知り得るでありませう、去れど此表に據つて斯ういふ御不審が起らうかと思ひます、五ヶ月より六ヶ月迄は薄めた牛乳を一日

入合宛要するのに、七ヶ月より八ヶ月迄は却つて  
 用量を減じ一日七合五勺の割合になつて見ると、  
 小兒に成長するのに用量の減する等はあるまいと  
 斯う云ふかも知れないが敢えて分量を減らしたの  
 ではない。其證據には純牛乳一日の量を見れば直  
 にわかるでせう然らばなぜ減らしたかと云ふに其  
 は唯薄め方を減らした丈です。即ち此頃になると  
 子供の消化力が漸く増して來て居ますから然のみ  
 薄くしない方がよいのです。

▲杓子定規の親 凡て牛乳の薄め方でも、薄めた  
 牛乳一日分の用量でも表に示した通り、何でも彼  
 でも表の規則にのみ拘泥するのは却つて杓子定規  
 になつて、保育上の障害となるのです例へば今月  
 の末日と來月の初日とは月こそ異なるも、日取り  
 に左して違ひのなきものを、表に示す如くに生後  
 の月に計り據つて、今日迄は何ヶ月の部だから何  
 の位に薄めなければならぬ、明日からは何ヶ月の  
 部になるから薄め方を換へなければならぬと云ふ  
 様に際立たせるのは、之れは杓子定規と申すので  
 却つて小兒の身体の爲めに宜しくないのでありま

す、其處は程と加減の見計ひを付けて、表に示し  
 た規則をば臨機應變の處置を取るのが肝要であり  
 ます

▲授乳と其間の時間 夫れから未だ一ツ表に依つ  
 て御不審が起らうかと思ひます、夫れは外でもあ  
 りませんが前に授乳から授乳迄の時間を生れた當  
 座は大略二時間位とお話し致して置いたことが御  
 座います最も二時間経つたからとて、快よく眠つ  
 て居る小兒を無理に起して授乳するには及ばぬと  
 云ふ、御注意は申して置いたが、扱て表に據つて  
 一日授乳の回数八回としてある處から調べて見る  
 と、授乳から授乳迄の時間は三時間となるが、牛  
 乳斗りで養育するのは人乳で養育すると違つて、  
 授乳時間の隔てを永く置かなければならぬかとの  
 お疑念があるかも知れないが、之れは決して爾ら  
 いふ譯では無い、薄めた牛乳一日分の用量さへ極  
 つて居れば、夫れを十二回に分けて即ち二時間目  
 位に飲ませても一向差支へないのですが前々にも  
 申した通り出來る事なら授乳と授乳の間を成るべ  
 く永く隔て、つまり三時間以上とする習慣をつけ

たいのです、それゆゑ表に顯はしたのは普通一般に用ひ易きやうと思つて御參考に供したのでありますから、程よく其邊を斟酌するやうに致された

いものです

▲左程理詰のものではない 一人人間の身体は規則通り一分一厘も違つてはならぬと云ふ爾んな究屈に出来て居るものではない、謂はゞ自然に調節の出来て行くもので多少の斟酌をしても夫れが決して健康を害するやうな事は無いものです、夫れよりは却つて規則にばかり心配仕過ぎて害になつたと云ふ事實の方が澤山見受るので之れは小兒でも大人でも同じ理屈で又實際の上にも其通りの反證があるのですから、規則に斗り縛られないで、表に示した様な規則は母親が活用して下さる事を望ましいのであります

▲砂糖を加へよ 薄めた牛乳が満足に出来たら、夫れを飲ませる時に、其中へ砂糖を加へる事を忘れてはなりません、夫れは乳糖でも、白砂糖でも可いが、薄めた一合の牛乳へ、小匙(珈琲など呑む時に用ゆる小匙) タップブリ一杯丈加へて能く攪

廻して砂糖が溶けた處で飲ませるやうになさい、牛乳養育に就て大切な注意は此外に未だあるので引續いて次に述べる事に致しませう

▲薄める水 牛乳養育に就て大切な事は前に述べた通り故夫れを能く御記憶あるやうに致したい、表に示した薄め方や、純牛乳一日の分量、其他必要の事は種々御座いましたらう、夫れを充分御諒解になつて暗誦して居る位に願ひたい、當つて直ぐ其理解が胸に浮ぶやうでないと思はせ勝ですから呉々も御注意申上げます、切牛乳を薄める水は生の水で宜いか、何れかと御質問が有りますが是れは一端沸騰したものを冷して置いて、夫れで薄めるやうに仕たい、尤も湯で薄めても差支へないが、配達になつた牛乳を直ぐ薄めて飲ませられぬのですから、水で薄めて宜い事は牛乳消毒のお咄しする中に詳しく申上る事にいたしませう

▲當にならぬ肥り方 生後七ヶ月より八ヶ月迄は純牛乳一日の量五合と表に示して置いた事は御記憶でありませう、牛乳ばかりで養育する一年前後

の小兒であれば一日純牛乳の分量は五合で止めて  
 差支へない、詰り五合與へれば小兒發育上充分の  
 營養があるので、之れ以上飲ませる必要を認めな  
 い併し飲ませさへすれば、此時代の小兒は際限な  
 く飲んで一日に七合も八合も飲む兒が世間には澤  
 山あるのみならず親達も牛乳を澤山飲む事を誇つ  
 て「此の兒はズン／＼牛乳を飲んで一日には七合  
 でも八合でも飲みます、爾うして此通り肥満して  
 居ります」と申す方もありますが是は却つて心得  
 違ひの事でありませす、何故なれば小兒は生後七八  
 ケ月の頃からは前にも述べたる如くシロ／＼他の  
 食物を取る時代になつて、乳の外に何か食物を欲  
 しがるものです、處が一ヶ年近くになつて七八合  
 も飲む小兒は、親が外に食物を與へぬ爲でありま  
 す外の食物を與へぬよりは、牛乳を飲ませて置く  
 方が滋養になるだらう杯と多くは素人考へをする  
 からであります、牛乳を澤山飲んで肥満して居る  
 からと云つて、此の肥り方は餘り感心致しませんで  
 す、成程一寸見れば丈夫そうだが皮膚の色は全然  
 蒼白で貧血して居るから却つて體質は悪い證據で

あります、ソコへ心付かずに唯肥満すれば夫れで  
 宜いと思ふのは、飛んだ誤解でありませんか、小  
 兒には色々な質があるので肥らないからとて決し  
 て心配になるものでなく、肥つたとて體質が悪け  
 れば其の方が遙に心配になる事でありませす、故に  
 生後七八ケ月の頃に至り他の食物を欲する時は返  
 つて與へる方が可いのです、食物の中にはいろいろ  
 の良い成分があつて營養も可くなる、體質も可  
 くなるると云ふ譯になるから、牛乳は一日量五合止  
 めにして七合も八合もと澤山に與へず其の間には  
 食物を取らせ、身体の故障を來さぬやう俗に云ふ  
 だまし／＼食物を見計つて與へるやうになさい、  
 尚序にお咄し致して置くのは生後九ヶ月目からは  
 牛乳を薄めずに純牛乳の儘與へて少しも差支へな  
 いのです、其分量も今申した通り一日五合止めと  
 云ふ事を心に留めて頂きたい